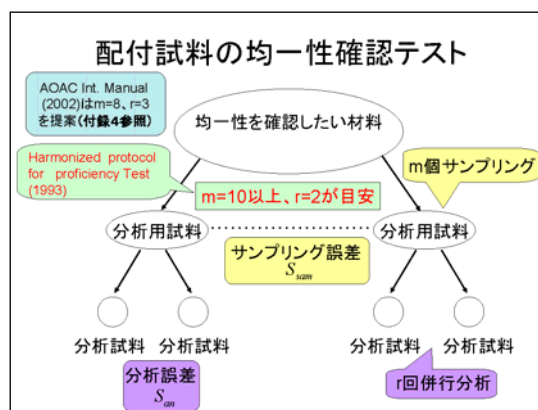
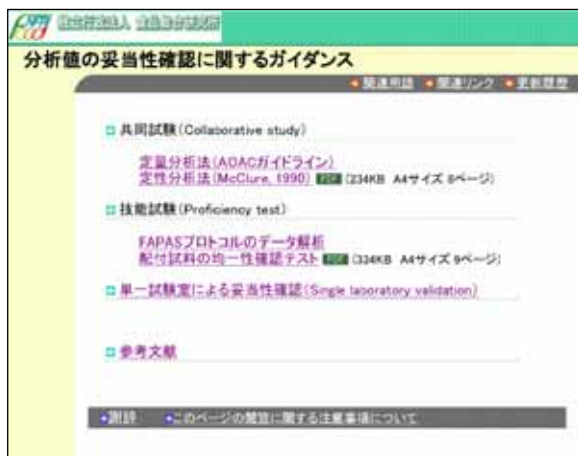


分析値の妥当性確認に関する ガイダンス情報

技術の特徴

- ・国際的ガイドラインのポイントの解説及び関連情報の紹介
- ・統計解析方法に関する詳細説明

研究の内容



定量分析の試験室間共同試験

設計上の必要最低条件 － 定量分析 －

- ・ 材料数 : 5以上
例外 : 3以上 (1マトリックス1濃度)
- ・ 試験室数 : 8以上 (外れ値として除去されない有効なラボ数)
例外 : 5以上 (高額機器、専門ラボ)
参加試験室数の2/9以下 (付録1参照)
- ・ 各試験室の反復数 : 2
基本的には Youdenペア (濃度差5%以内)
・ 乱数でコード化した
非明示の2反復試料

報告書に記載すべき事項

- 1) 材料 (濃度の昇順に記載)
 - 2) 外れ値検定の後に残った試験室数
 - 3) 外れ値検定で除外された試験室数
 - 4) 平均値 (単位)
 - 5) 既知ならば真値または設定値
 - 6) 併行標準偏差 (repeatability standard deviation, s_r)
 - 7) 併行相対標準偏差 (RSD_r)
 - 8) 併行許容差 ($r=2.8s_r$)
 - 9) s_r が有効でないときのオプション: 総室内標準偏差 (s_a)
 - 10) 室内再現標準偏差 (s_R)
 - 11) 室内再現相対標準偏差 (RSD_R)
 - 12) HORRAT (化学分析値の場合)
 - 13) 室内再現許容差 ($R=2.8s_R$)
 - 14) 報告可能な回収率 (% Rec)
- 統計用語の有差差と同じ
- Fisherの最小有差差
- $Lsd = t(\alpha, df) \sqrt{2s_p^2/n} = t(\alpha, df) \sqrt{2} \times s$
- $2\sqrt{2} = 2.8$
 $\therefore t \approx 2$

今後の展開

農林水産省消費・安全局の「サーベイランス・モニタリングの計画・実施及び結果の評価・公表に関するガイドライン」

(http://www.maff.go.jp/syoku_anzen/risk/guideline.html) との連携

参 考

食品総合研究所ホームページ (<http://www.nfri.affrc.go.jp>) で公開中



代表研究者: 内藤成弘
所 属: 分析科学部 品質情報解析研究室
問い合わせ先: 〒305-8642
茨城県つくば市観音台2-1-12